

「きもちのよいあいさつ」

小2学級活動(9月)授業実践プログラム2

1 題材設定の理由

(1) 活動内容・項目

主たる内容・項目

- (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
基本的な生活習慣に関すること

関連する内容・項目

- (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
望ましい人間関係の育成

(2) 題材設定の背景及び児童の一般的な実態と現状

本来子ども達が家族や友達との日常的なかかわりの中で自然に身につけていくべき社会性がどんどん身に付かないまま成長してしまう傾向にある。そのため、できるだけ早い時期に社会性を意図的に身に付けさせる必要性が叫ばれてきている。今回取り上げるあいさつもその一つと考えられる。あいさつをしようとする姿は見られるものの、元気よくはっきりと心をこめた「きもちのよいあいさつ」ができる児童も減ってきているという声が聞かれる。プログラム開発協力学級を対象に行ったあいさつ意識調査においても、恥ずかしかったり面倒くさかったりするために、あいさつをしないや小さな声のあいさつになってしまう児童が多かった。

今回行う「きもちのよいあいさつ」では、どんなあいさつがよいあいさつかをモデリングを通して考えさせ、さらにその場で実際に練習するソーシャルスキルトレーニングを取り入れることで学級のよりよい人間関係づくりのきっかけとしていきたい。

(3) 指導法・指導上の留意点

ソーシャル・スキル・トレーニング(1)を授業に取り入れ、「きもちのよいあいさつ」の練習を体験することで、日常生活にあいさつを定着させる。

このソーシャル・スキル・トレーニングの進め方は、「インストラクション」「モデリング」「リハーサル」「フィードバック」「定着化」の手順を踏むことを大切にする。本授業も子ども達の実態に応じて重点化を図ったり、数回に分けたりしながら柔軟に進める。

- 1 対人的なこと、人間関係に関することについて、知識や経験に裏付けされた技術・技能を模擬体験を通して訓練する手法

2 指導目標

- (1) 「きもちのよいあいさつ」はどんなあいさつか考え、あいさつの仕方を身に付ける。
- (2) 「きもちのよいあいさつ」を体験することで、心地よさを味わい、進んであいさつをしようとする態度を養う。

3 指導計画

(1) 事前・事後指導

事前指導 - 帰りの会 ; あいさつについての意識調査を行う。
《本時》 - 学級活動 ; 「きもちのよいあいさつ」の授業を実施する。
事後指導 - 朝の会 ; 「ふりかえりカード」から感想を紹介する。
あいさつの定着化を図るためにチェックリストを活用する。

(2) 教科指導等との関連

道徳 ; 基本的な生活習慣でのテーマに生かす。

4 指導案

(1) 指導過程

本時のねらい	「きもちのよいあいさつ」はどんなあいさつか考え、あいさつの仕方を身に付ける。 「きもちのよいあいさつ」を体験することで、心地よさを味わい、進んであいさつができるようにする。		
展開	活 動 の 内 容	指 導 上 の 留 意 点	評価・資料
導 入 (5分)	1 本時のねらいを理解する。 ・「今日は、1日を楽しく過ごすための魔法の言葉を勉強しましょう。」	どんな言葉を言ったら、1日を楽しく過ごせるかについての問題意識を持たせる。	意識調査 【評価1】
展 開 (30分)	2 あいさつの練習をする。 (1) 教師の2種類のあいさつを見て考える。 (2) 隣の人とあいさつをする。 3 「きもちのよいあいさつ」の練習をする。 (1) 「きもちのよいあいさつ」はどんなあいさつか確かめる。 ・ 元気にはっきり ・ 相手を見て ・ 心をこめて (2) もう一度、「きもちのよいあいさつ」の練習をする。 4 「あいさつリレー」ゲームをする。 (1) やり方の説明を聞く。 (2) グループごとに「誰に」「どんな」あいさつを言うか考える。 (3) あいさつリレーを行う。 (右回りで、左回りで)	教師のモデリングでは「下を向き元気がないあいさつ」と「視線を合わせ、にこっと笑顔でのあいさつ」を演技して見せ、違いを考えさせる。 2人ペアで交代しながら「元気」「はっきり」に気をつけ、あいさつの練習をさせる。 2人ペアで上手にできている子を見つけておき、みんなの前でしてもらい、「きもちのよいあいさつ」についてまとめさせる。 「きもちのよいあいさつ」をすると、あたたかい気持ちになることに気付かせる。 グループ(8人程度)ごとに手をつないで輪になり、隣の人にあいさつしたら、あいさつされた人はあいさつを返した後、反対の人にあいさつするようやり方を説明する。 グループで誰にどんなあいさつを練習したいか相談させ、日常にすぐに生かせる工夫をする。 相手によってあいさつの仕方が変わることから、同じ方向ばかりでなく、反対にもあいさつさせる。	あいさつをする方法 【評価2】
ま と め (10分)	5 本時の活動を振り返り、気付いたことや考えたことをふりかえりカードに書く。	あいさつをしたり、相手からあいさつを返されたりしたときの気持ちを考えさせ、今後の意欲付けをする。	ふりかえりカード 【評価3】

(2) 評価計画(評価の観点)

評価1	関心・意欲	「きもちのよいあいさつ」はどのようなあいさつか考えようとしていたか。
評価2	知識・理解	「きもちのよいあいさつ」はどのようにするか分かったか。
評価3	思考・判断	あいさつをしたり、相手からあいさつを返されたときの気持ちについて振り返れたか。

5 プログラムの展開例

活動場所 教室

準備物 「どんなあいさつをしてみたいかを記入するカード」と「マジック」(児童用)
「ふりかえりカード」

導入 (5分)

1 本時のねらいを理解する。



今日は、1日を楽しく過ごす魔法の言葉を勉強しましょう。

展開 (30分)

2 あいさつの練習をする。

<問題意識を持たせる問いかけ>

どんなあいさつが気持ちのよいあいさつでしょう?

よい例と悪い例の教師によるモデリング後、

3 「きもちのよいあいさつ」の練習をする。

<隣の人とあいさつをする子ども達>

ヘアでのリハーサル



ヘアでのモデリング



大きな声でもはきはきとしたすばらしいS君とAさんのあいさつだったね。(拍手!)

4 「あいさつリレー」ゲームをする。

このグループのようにやりますよ。

私たちは、「家族に」「おやすみなさい」というあいさつをしようよ。(紙に書く。)
さあ、最初は右まわりからにしよう。



あいさつリレーの様子



まとめ (10分)

5 本時の活動を振り返る。

- ・心をこめてあいさつするのはきもちいいね。
- ・はずかしかったけどがんばってやれたので、家でもやりたいです。
- ・心がいっぱいこもっていてうれしかったです。

- 6 児童の反応（授業者・参観者の観察から） [授業者、参観者]
- : はずかしいと思いながらも一人一人がんばっていた。その子なりに今後へ向けてがんばろうという感想を持ったようだ。
 - : 繰り返しあいさつを行うことで、少しずつ慣れていったようだ。「おじゃまします」などの返す言葉の違うあいさつには、少しとまどいが見られた。
 - : 子ども達の表情がとても生き生きしてよかった。トレーニングやゲームも回を重ねるにつれ、はっきり上手に言える子が多くなっていった。
 - : 実際に行うということは、学年が低いほど効果が高いと思った。また、全員が実際にやることになるので、「お客様」になっている子どもがいない点もよかった。
 - : まとめで、よくできていた子ども達の例を全体に広めたことで、さらに高まりが見られた。感想を交流したり、教師が意味づけしてやったりすることが大切だと思った。
 - : 「ふりかえりカード」を使うことで、元気に心をこめたあいさつをするとどんな気持ちになるかや他の人のよいところについても気づく感想が見られた。

- 7 授業者・参観者の感想「・」、授業改善の視点「・」
- : 今回、授業を行ったことで、今まで小さい声でしかあいさつができなかった子やずかしくてほとんどあいさつしなかった子の意識に変化が見られていた。とてもよいきっかけづくりになった。さらに定着を図る意味でゲームを再度行ったり、チェックカードの活用を図ったりしながら、今後も継続指導を行っていきたい。
 - : 友達だけでなく、いろいろな人にあいさつをしようとする意欲づけになったと思う。
 - : 「あいさつリレー」の中で、どのような状況なのかもっと場面設定などを工夫するとさらにあいさつが意味のあるものになったと思った。
 - : 「あいさつリレー」の中の話し合いで、「誰に」「どんな」あいさつを言うかの相談をしているときは、もっと教師が積極的にかかわってもよいと思った。
 - : 他の学年でも「あいさつリレー」のような内容は、発達段階に応じてやり方をアレンジできるし、1年生などは、T・Tで行っても効果的かと思った。

<ソーシャル・スキル・トレーニングを授業に取り入れることに関する感想>

- : ソーシャル・スキル・トレーニングの流れをそのまま授業に取り入れることに無理はなかった。あいさつなど当然身に付けてほしいことを集団全体で丁寧に取り扱い定着を図れたら、人間関係はよりよいものになると思った。
- : 低学年では、「はっきり」「元気よく」と口で言っただけでは分からないので、具体的に体験させて実感させるトレーニングの機会は大切だと思った。
- : ソーシャル・スキル・トレーニングは、流れがはっきりしているし取り組みやすいことが分かり、ぜひ自分の学級でも実践してみたいと思った。繰り返しゲーム感覚で行う中で抵抗なく行えるので、日常化を図る上でもとても効果的だと思った。

- 8 関連プログラム・参考文献等
関連プログラム

・「人間関係をつくる力を育てる指導援助プログラム（小・中・高等学校編）」
福島県教育センター教育相談チーム編

参考文献

・「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校」
國分康孝監修 小林正幸・相川 充編著 図書文化

「^{きもち}気持ちのよいあいさつしていますか？」

<small>な</small> 名 <small>まえ</small> 前	
---------------------------------------------------------------	--

1 ^{じぶん}自分のあいさつは、どんなあいさつですか？ （ でかこみましょう。）

^{げんき} 元気があるか	とてもある	すこしある	まあまあある	ない
いつもするか	いつもする	ほとんどする	ときどきする	しない
だれにするか	ぜんぶの ^{ひと} 人	ほとんどの ^{ひと} 人	なかのよい ^{ひと} 人	だれにもしない
^{じぶん} 自分からするか	いつも ^{じぶん} 自分から	ほとんど ^{じぶん} 自分から	ときどき ^{じぶん} 自分から	^{じぶん} 自分からは ^{いちど} 一度もしない

2 どんなあいさつがよいと思いますか？

3 どんなあいさつをしてあげたら、あいての人は^{ひと}気持ちがよいとかんじるでしょうか？

^{せんせい} 先生とろうかであった	「こんにちは」と ^{こえ} 声に出して ^い 言う にこっとしてくびをさげる ^{した} 下を ^む 向いて ^{とお} 通る
^{ともだち} 友達のおうちの ^{ひと} 人とあった	「こんにちは」と ^{こえ} 声に出して ^い 言う にこっとしてくびをさげる ^{した} 下を ^む 向いて ^{とお} 通る
ぐあいのわるくな ^{ともだち} った ^{かえ} 友達が帰るとき	「おだいじに」と ^い 言う 「早くよくなるといいね」と ^い 言う 「ずるい」と ^い 言う
^{ひと} きんじょの人と ^{ゆうがた} 夕方、あったとき	「こんばんは」と ^{こえ} 声に出して ^い 言う にこっとしてくびをさげる ^{した} 下を ^む 向いて ^{とお} 通る

ふりかえりカード

年 組	ばん	名前	
-----	----	----	--

- 1 今日きょうのべんきょうをふりかえり、つぎの4つのうち、
そうだとおもったところを でかこんでください。

今日きょうのべんきょうは、楽したのしかったですか。

とても楽したのかった 楽したのかった あまり楽したのしくなかつた 楽したのしくなかつた

今日きょうのやり方やりかたはわかりましたか。

よくわかつた わかつた あまりわからなかつた わからなかつた

きもちのよいあいさつが、できましたか。

よくできた まあまあできた あまりできなかつた ぜんぜんできなかつた

あいさつをしてもらってうれしかったですか。

とてもうれしかった うれしかった あまりうれしくなかつた うれしくなかつた



- 2 今日きょうのべんきょうでかんじたことやお
もったことをかいてください。

